
「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」¹の改訂

Improving the Treatment Program for Developing an Offender's Awareness of the Victims and Consequences of Sexaully Abusive Behaviours

本 多 隆 司
Takashi HONDA

自己の加害行動による被害やその結果の理解を目的に、性暴力のある知的障害／発達障害児・者等を対象とした既発表ワークを「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」として改訂し検討した。対象者（加害者）の被害者理解をより一層深め、共感的なものにつなげることがその目的である。被害者の被害時の様子や言動を手がかりに被害者の感情と思考を推しはかるワーク（シート20）、現在の被害者の生活状況や困難、感情等を考えるワーク（シート21）を新たに修正し変更を加えた。被害時の被害者の感情や思考を考えるシートについては、これまでの実践経験等から反応を想定し、①社会規範による類推、②被害者の行動からの類推、③自己の経験からの類推、④独特な類推の4カテゴリーを検討した。それぞれのカテゴリーにみられる課題を確認し修正しながら、対象者は自己からの視点だけでなく他者や社会の視点への移すことが必要であること、さらに被害時と現在へと視点を時間的に移動させ重層的に被害者の感情等を考えることで、被害と被害者理解を深め共感的な理解に接近できるのではないかと考えた。

キーワード：性暴力被害、知的障害者、発達障害者、共感的理解

（種智院大学 教授）

1. 問題の所在と目的

性暴力のある知的障害/発達障害児・者を対象にした心理学的指導（セラピー）や介入は、矯正施設をはじめ、児童福祉、障害者福祉に関連した相談機関や施設において実践が重ねられている。そこで使用されているプログラム、例えば「フ

ットプリント」(Hansen & Kahn, 2006 本多他訳 2009) やBlasingame (2005) の「DD-SORT (The Developmentally Disabled Sexual Offender Rehabilitative Treatment)」(p. 127-184) などのモデルは、思考、感情、認知、行動の相互作用を中心とした性加害行動のサイクルモデルである。これは、ストレスなど自己の内外の変化をいわばリスクとしてとらえ、認知や思考の誤りを軸として、思考、ファンタジー、計画、逸脱した性的興奮等の連鎖段階を経て性加害行動に焦点化するものである。このモデルは対象者（加害者クライエント）にとってもプログラム実施者にとっても加害行動メカニズムの理解を容易にしただけでなく、リラップス・プリベンション Relapse Prevention（再犯防止）等を組み合わせ、再犯防止を目的として対象者自身が自己をモニタリングして自己コントロールするためのスキルとされている（本多, 2011 ; Ryan.G., Leversee.T., & Lane.S., 2010）。

しかしながら、これらプログラムにおいては、性暴力による被害者をテーマにした箇所も設けられているが、性暴力が被害者の生活に及ぼす影響などが対象とされず、加害者が自己の加害行動がもたらした被害の実情やその結果を理解するには十分と言えるものではない。

性暴力加害者は自己の行動の結果を知る責務があり、自分の起こした性暴力に向き合い、再発を防止し、性暴力被害と被害者について理解を深めることが重要であることから、知的障害／発達障害のある性暴力加害者を対象とした「性暴力被害と被害者を理解するワーク」を作成、検討した。（伊庭・姥・隈部・福嶋・細田・松澤・本多, 2012 ; 本多, 2013）

このプログラムでは、被害と被害者に関する知識を学習させるワークを挟む形で、その前後に被害者の感情や考えを認知、あるいは想像し表現するワークが置かれている。はじめの段階で被害者等の感情や考えを明確にすることに困難であったとしても、トラウマとその事例に関するシートを学習した後、再び取り組む。被害者や自己の感情や考えへの想像、トラウマの学習、再び被害者への想像という組み立てにり被害者理解を進めていく構成である。

対象者はこのプログラムにより被害者の心理的・身体的・社会的状況を学習し、被害者に対する自分の感情や認識を深めることができた。しかし、実践を重ねるなかで、より一層被害者への理解を深め共感的なものにつなげられないか、という課題が明らかになった。

性暴力における共感的理解（共感性）の役割は研究結果において必ずしも一定していないようだが（田口・平・池田・桐生, 2010, p. 43-44）、Ryan (2010) は、性加害者（少年）のリスクの減少と健全さの支援に関して次の三点をユニバ

ーサル・ゴールとし (p. 112 Figure 8.5)、そのひとつに共感性をあげている。

ユニバーサル・ゴール

- ・ コミュニケーション：思考、感情、ニーズの表現（行動に代わって言葉を使用する）
- ・ 共感性：感情の認識、表現、反応（自己や他者の手がかりに対して）
- ・ 説明責任：個人の責任（自己や他者の行動に対する正確な帰属）

共感については、セラピスト－クライエントの文脈において、「『あたかも…のようにas if』という状態を失わずに感じ取ることが共感empathyである。」との Rogers (1957) 指摘がある。さらにRogers (1959 伊東編訳 1967, p. 207) は、「感情移入empathyとか、感情移入的empathicであるという状態は、他人の内部的照合枠internal frame of referenceを正確に知覚する」が前提である。この内部的照合枠（または準拠枠）は、「意識に入ってくる可能性のある感覚、知覚、意味、記憶などのすべて」であって、「個人の主観的な世界」である。これを手がかりに自己とは異なる他者を推しあかる。

共感は自己と他者とは異なるとの自明の意識のもとに²、出来るだけ忠実に他者に生じた主観的体験を推しあかり感じる過程であり、他者の体験を認識するのひとつ的方法である（松下・松尾, 2007；安井・田島・目黒・箭内・宮崎, 2012）。

対象者が被害と被害者への理解を深め共感的な理解に近づくためには、被害者の体験をできるだけ忠実に推察し、感じとらねばならない。そのための最初の手がかりは被者の発した言葉、表情、態度など顕在化した行動に対する気づきである。対象者は被害者のどのような行動やサインに気づき、それをもとにいかに被害者の感情や考えを推しあかったを、一方どのような行動やサインを見落としたか、あるいは誤解したかを検討することが必要である。気づきからの推察にいたるプロセスは対象者の知識やこれまでの体験も強く影響していることを踏まえつつ、必要に応じて心理教育することもあわせて求められる。

本論文では、修正を加えた「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」（本多隆司・伊庭千恵・隈部一彦, 2013）をもとに、これまでの様々な指導経験などから本ワークの意義や課題を考察する。これについては、個人情報の取り扱いに問題がないことを確認した。

2. 「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」の目的と構成

ワークの概要を表1に示す。ワークは、先述したように、(a)自己の性暴力の明確化、(b)性被害についての心理教育、(c)被害者に対する理解の深化、の3領域からなる。本研究において修正検討を加えたのは、(c)領域のシート20とシート21である。

表1. 「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」概要

No.	シート	内 容
1	ワークの目的	ワークの目的を示す。
2	性暴力の定義	性暴力の定義を示す。
3	性暴力の被害者①	性暴力の内容と被害者を特定する。
4	性暴力の被害者②	被害者の被害時の気持ちを考え、その理由を考える。
5	性暴力の被害者③	被害者の身体損傷、今の感情、生活への影響を考える。
6	トラウマとは	トラウマについて学習する。
7	ストレス時の対象者の状態	ストレス時の対象者自身の身体、感情、思考、行動を示す。
8	性暴力をうけたあとにおける問題（トラウマ症例）	過酷なストレス（性暴力）後の具体的な身体状態、感情、思考、行動への影響を学習する。
9・10	Aさん（架空の性暴力被害事例）と解説	25歳Aさんは幼児期の被害のため今も解離、マニ、集中力低下に苦しむ。
11・12	Bちゃんの事例と解説	小1Bちゃんは被害者なのに罪障感を感じる。
13・14	Cさんの事例と解説	高1Cさんはフラッシュバックなどが出現する。
15・16	Dさんの事例と解説	30歳男性Dさんには学童期のいじめのため飲酒への依存、職業生活の不適応を生じた。
17	リラックスシート	対象者の状態に応じてリラックス。
18	私の被害者①	被害を受けなかった時の被害者の人生イメージ。
19	私の被害者②	被害を受けその人生がどう変化したか。
20	私の被害者の気持ちの理解①	被害時、被害者の外見的様子を想起させ、被害時の被害者の感情と思考内容を考える。
21	私の被害者の気持ちの理解②	被害者の現在の生活上の困難、感情、思考を考え、対象者自身の感情と思考を再検討する。
22	私の被害者へ伝えること	加害者として被害者に今伝えねばならないこと。
23	私の家族のこと①	家族が対象者に伝えたいことを考える。
24	私の家族のこと②	家族への要望や困り事。さらに、被害者家族に伝えたいこと。
25	ワークの復習	学習内容を簡単にまとめる。
26	ワークの感想	学習を終えた感想を述べる。

シート20に先立つシート19は、被害者の被害前、被害後の人生を線よりイメージする課題であるが、続くシート20の導入ともなっている。

シート20は、被害を受けた時の被害者を対象とし、被害を受けた時の具体的な被害者の様子、そこから考えられる被害者の感情と思考を考えるものである。

- ① 自己の性暴力の内容
- ② 被害者の特定（不明である時は知っている範囲で記述）
- ③-ア) 被害を受けた時の具体的な被害者の様子
 - イ) 被害を受けた時の具体的な被害者の様子から推しはかった、あるいは感じられた被害者の感情
 - ウ) 被害を受けた時の具体的な被害者の様子から推しはかった、あるいは感じられた被害者の思考

被害者の様子とは、その時の実際に対象者が知覚した表情や発言内容、声のトーン、動作などである。被害者一人につき上記の③ア・イ・ウを3セット分（3人分）用意した。実際の書き込み式シート（A4版大）を図1、図2に示す。

図1 シート20（部分）

<p>20. わたしの被害者の気もちの理解①</p> <p>もういちど、被害をうけた時のあなたの被害者について考えましょう。</p> <p>1. 被害者について</p> <p>1-① あなたは、どんな性暴力をしましたか？</p> <p>わたしは、_____をしました。</p> <p>1-② だれに、性暴力をしましたか？</p> <p>わたしの被害者は、_____です。</p> <p>1-③-ア) 被害をうけた時、あなたの被害者約するで、あなたが見たことや聞いたことを書きなさい。</p> <p>被害をうけた時、わたしの被害者は_____でした。</p> <p>1-③-イ) 被害をうけた時のように、あなたの被害者はどんな気持ちだったと思ひますか。</p> <p>被害をうけた時、わたしの被害者は_____です。</p> <p>そのように考えた理由を書きなさい。_____</p>

図2 シート20（部分）

1-③-ウ) 被害をうけた時のようすから、あなたの被害者は、どんなことを考えていたと思いますか。

被害をうけた時、わたしの被害者は_____と考えていました。

そのように考えた理由を書きなさい。_____

1-④-ア) 被害をうけた時、あなたの被害者のようすで、あなたが見たことや聞いたことを書きなさい。

被害をうけた時、わたしの被害者は_____でした。

1-④-イ) 被害をうけた時のようすから、あなたの被害者はどんな気持ちだったと思いますか。

被害をうけた時、わたしの被害者は_____です。

そのように考えた理由を書きなさい。_____

1-④-ウ) 被害をうけた時のようすから、あなたの被害者は、どんなことを考えていたと思いますか。

被害をうけた時、わたしの被害者は_____と考えていました。

そのように考えた理由を書きなさい。_____

1-⑤-ア) 被害をうけた時、あなたの被害者のようすで、あなたが見たことや聞いたことを書きなさい。

被害をうけた時、わたしの被害者は_____でした。

Copyright© 2012 ASB 研究会(Study Group of Antisocial Behaviors)

□ □ 24

シート21では、現時点で、被害者が直面している困難を考え、それを手がかりに被害者の現在の感情と思考を表現させ、最後に被害者に対する対象者の考えをまとめ、表明する。

1. 被害者の現在の年齢と状況
2. 被害者が、現在、困っていること
3. 被害者が、被害を思い出したときにいだく感情を想像して書く

図2 シート21

21. わたしの被害者の気もちの理解②

1. 被害者について書きなさい。

わたしの被害者は、いま、_____歳くらいです。

わたしの被害者は、いま、_____をしています。

2. あなたの被害者は、いま、どんなことでこまっていると思いますか。

①わたしの被害者がこまっていることは、_____です。

②わたしの被害者はこまっていることは、_____です。

③わたしの被害者はこまっていることは、_____です。

3. あなたの被害者は、被害のことを思いだして、いま、どんな気もちを感じていると思いますか。

①被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と感じます。

②被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と感じます。

③被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と感じます。

Copyright© 2012 ASB 研究会(Study Group of Antisocial Behaviors)

□ □ 32

図4 (シート21)

4. あなたは、被害のことを思いだして、いま、どんなことを考へていると思いますか。

①被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と考へています。

②被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と考へています。

③被害のことを思いだして、わたしの被害者は_____と考へています。

5. あなたは、あなたの被害者に対する態度について、いまどんなことを思っていますか？

①わたしは、わたしの被害者に対して、_____と思っています。

②わたしは、わたしの被害者に対して、_____と思っています。

③わたしは、わたしの被害者に対して、_____と思っています。

Copyright© 2012 ASB 研究会(Study Group of Antisocial Behaviors)

□ □ 33

4. 被害者の現在の思考を想像して書く

5. 被害者に対する対象者の考えをまとめて表明する

被害者は1人としたが、2. 被害者の困難、3. 被害者の現在の感情、4. 被害者の現在の考え方、は解答欄を3つ用意した。実際の書き込み式シート（A4版大）を図2に示す。

これらのワークシートは、障害特性を考慮してスマールステップ化し、また理解が容易になるよう言語表現や視覚的表現などに配慮した。³

3. 想定される反応カテゴリーの検討

ここでは、修正を加えたシート20、シート21について、本多（2013）などをもとに様々な場面での指導経験から想定される反応カテゴリーを中心に考察する。

シート20（被害を受けた時の被害者の感情や思考を考えるシート）は、被害者1人につき外見の様子から推察される被害者の感情、思考のセットを3回問うため、極めて多彩に表現されるだろう。その反応は心理教育前のシート4もあわせ、次の4つの反応カテゴリーが想定される。

- ① 社会規範による類推（想定例：こんなことをされるのは誰だって嫌だから）
- ② 被害者の行動からの類推（想定例：泣いていたから嫌な気持ち）
- ③ 自己の経験からの類推（想定例：自分がいじめられていた時の気持ち）
- ④ 独特な類推（想定例：黙っていたのは同意したという意味）

上記のパターン①は、社会で広く共有されている規範や感覚に添って被害者の感情等を想像するものである。パターン②は、対象者が被害者の行動や言語表現など外見上の変化や手がかりに気付き、それらを正しく解釈した結果である。一方、パターン③は、被害者の状態や社会規範などではなく、類似した過去の被害経験に対する自己の感情の記憶をもとに被害者の感情等を想像するものである。パターン④は、被害者の状態から離れ、いわゆる認知の歪みにつながる誤解釈であり、共感的理解への接近を妨害し、加害者の責任を曖昧にすることから即時に修正すべきである。

共感的理解につながるためにには、たとえ同じ経験をしたとしても、他者は必ずしも自分と同じ感情をもつわけではない（Ryan et al., 2010, p.304）ことを理解するよう心理教育することが必要である。

従って、パターン①では、ある出来事に対して嫌な気持ちになる人もいれば、怒りを感じる人もいるなど多様な視点から被害者の感情を推しあつたか、という点検が共感的理解につながるために求められるだろう。

また、パターン③においては、対象者が呼び覚まされた感情記憶によるもので、必ずしも被害者に対する認識の結果とはいはず、自他の区別があいまな「同化」に近く (Rogers, 1959 伊東編訳1967)、同じであるのは当然との認識によるものである (Ryan et al., 2010)。したがって、パターン②の被害者の感情等を推しはかるために被害者の様子など手がかりへの気づきがあったかの確認を必要とする。

シート20は、対象者にとって心理的圧迫感の強い課題であり、被害者の様子が思いだせない、感情や思考の手がかりに気づかないなど当惑や困難を訴えることもあると思われる。

シート21（現在の被害者の困難、感情、思考を考えるシート）では、性暴力が被害者の現在にどのような困難を生じさせたかを問うものである。心理教育を行うシート6～16によるトラウマや事例の学習を受けて、その前に挿入されたシート5よりも多彩な表現が期待される。また、被害時点であるシート20に続けて実施するところから現在の被害者の状況との比較も行い、被害の長期化やその変化も学習する。実施においてはこれまでの学習を参照するなど多面的に考えるよう促す必要もあるだろう。

シート21の4では被害者の現在の考えを想像させているが、必ずしも謝罪や弁済のみを求めてはいるのではない。それらを想定したうえでシート21の5において自己（対象者）の考えを述べる。

シート20、シート21のワークを経て、シート22「わたしの被害者へ伝えること」において謝罪、自己の責任である加害行為など対象者が伝えねばならないことを書簡の形式で表明する。

4. 理解の深化に向けての課題

本ワークの実施において重要な視点を複数化、手がかりの解釈について若干の考察を加え、残された課題を述べる。

(1) 自己の視点だけにとどまらず視点を変えたとらえ方が出来たか

他者の視点や立場に立つことが困難な特性のある対象者の場合、シート20、21の課題を困難を感じるかもしれない。例えば、自閉症スペクトラム障害の特性として「心の理論」⁴の困難さがいわれる（例えば、Baron-Cohen・Leslie・Frith, 1985 ; Happé, 1991 富田訳 1996）。他者の行動に対する推論という課題の通過は遅れるとの知見があり、共感的理解に至るには困難があるとされる。一方、質的に異なるのではないかとの指摘がある。その発達プロセスから直感的な心の理解は困難かもしれないが言語的命題は可能であるとすれば

(別府・野村, 2005; 別府, 2005)、その積み重ね、例えば言語として理解と表明が可能な社会的規範等による接近は可能ではないかと思われる。

こうした言語的知識による理解は上述のカテゴリーでいえばパターン①に相当し、指摘したように被害者の感情等は多様であり個別であるという観点から点検し、必要に応じて心理教育することにより被害者理解を深めることが出来よう。自明であるはずの多様性や個別性への気付きは重要であり、対象者が自己の性暴力被害を振り返る時、被害者の感情や思考を考える手がかりについて見落しきはなかったか、さらにその視点を自己だけにとどめず、たとえその源泉が知識であったとしても他者や社会など複数の視点に移動させることが共感的理解への接近には必要である。

被害を考える際の視点の移動はそれだけにとどまらない。被害を受けた時の被害者の感情や考えだけでなく、被害時から時間が経過した現在の被害者の感情等を比較する。被害者の感情等は時間とともに変化してきたのか、それともそのまま維持されているのか。対象者は上述した複数の視点に加え、時間にそって視点を移動させ、重層的に被害者の感情や考えを推しはかる。

(2) 手がかりの解釈に誤りはなかったか

上述の反応カテゴリー④独特な類推は、いわゆる認知の歪みや思考エラーとは異り、知的障害／発達障害の特性から他者の様相を十分に把握できず、その結果自己中心的な認識に留まる、あるいは認識が制限させる状態であることも考えられる。対象者の発達レベルが反映した可能性も考えられる。

加害のサイクル(例えば、Hansen & Kahn, 2006 本多他訳 2009, p. 189 – 203 ; Ryan et al., 2010, p. 286 – 290)などのワークの実施するなかで、加害行為に至る先行刺激(状況)などを探求し、自己の行動の理解と再犯予防のメカニズムを学習していくことは可能である。しかしながら、対象者自身が自己の加害行為をどのように認識しているかを明確にし難いこともある。対象者の障害特性など心理的・社会的要因等による差異やが困難さがあるならば、(1)で論じた観点もあわせより具体的に心理教育すべきであろう。

5. おわりに

「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」を行うなかで、対象者自身がさまざまに気付いたことを振り返り、なぜ加害時にそう考えなかつたのかと思う場合もあるかもしれない。被害者の感情や思考に対して、対象者が自己の内部

にわき上がった感情や思考等などに自己のサインに気づき自己をモニターすることは自己コントロールにつながることから重要である。また、性暴力に対する心理教育等によって学習した正しい思考や良いタッチなどを実践するための動機づけ、あるいはこうした学習への意欲につながるものである。シート20、21は対象者の対人関係スキルの点検とその結果に対する修正や心理教育でもあることから、対象者の対人関係の質を高める転換点ともなりうるものである。

本ワークの効果検証には長期のフォローアップを要するが、今後とも本ワークや性暴力加害者への心理学的指導の実践を重ねていきたい。

【文献】

- Baron-Cohen, S., Leslie, A. M. & Frith, U. (1985). Does the Autistic Child have a “Theory of Mind”? *Cognition*, 21, 37-46.
- 別府哲・野村香代 (2005). 高機能自閉症児は健常児と異なる「心の理論」をもつのか:「誤った信念」課題とその言語的理由付けにおける健常児との比較 *発達心理学研究 第16巻、第3号*, 257-264
- 別府哲 (2008). 学童期における高機能自閉症児の自他理解の発達と障害—高機能自閉症児及びアスペルガー症候群児の発達特徴をめぐる研究動向— ヒューマンリサーチサービス11 立命館大学人間科学研究所
- Blasingame, G.D. (2005). *Developmentally Disabled Persons with Sexual Behavior Problems: Treatment · Management · Supervision*. 2nd ed. Wood & Barnes Publishing
- Hansen, K. & Kahn, T. (2006). *FOOTPRINTS: Step to a Healthy Life*. Safer Society Foundation, Inc
(ハンセン, K・カーン, T. 本多隆司・伊庭千恵(監訳) (2009). 性問題行動のある知的障害者のための16ステップ「フットプリント」心理教育ワークブック 明石書店)
- Happé, G. H. F. (1991). The Autobiographical Writing of Three Asperger Syndrome Adults: Problems of Interpretation and Implications of Theory. In U. Frith(Ed.). *Autism and Asperger Syndrome*. Cambridge University Press. (ウタ・フリス(編著) 富田真紀(訳) (1996). 自閉症とアスペルガーリー症候群 東京書籍)
- 藤岡淳子 (2006). 性暴力の理解と治療教育 誠信書房
- 本多隆司 (2011). 「フットプリント」による性暴力加害者への実践的介入の

試み 仏教福祉学 No.21 種智院大学仏教福祉学会

- 本多隆司 (2013). 知的障害等のある性暴力加害者を対象とした「性暴力被害と被害者を理解するワーク」の試み 仏教福祉学 No.22 種智院大学仏教福祉学会
- 本多隆司・伊庭千恵・隈部一彦 (2013). 「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」の検討 日本発達障害学会 第48回研究大会
- 伊庭千恵・姥敷子・隈部一彦・福嶋裕美・細田陽子・松澤知子・本多隆司 (2012). 性暴力加害者に対する性暴力被害と被害者を理解するワーク－知的障害／発達障害児・者を対象に－ 日本心理臨床学会第31回大会
- 金子宏・新堂幸司・平井宜雄 (編) (2004). 法律学小辞典第4版 有斐閣
- 神田橋條治 林道彦・かしまえりこ (編) (2012). 神田橋條治精神科講義 創元社
- 松下姫歌・松尾良和 (2007). Rogersの共感に関する Hoffmanのrole-taking の観点からの再検討 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 第56号 2007 pp. 171–180
- Ryan,G. (2010). Patterns of Affect and Cognition : Dynamics Associated With Behavior. In G. Ryan, T. Leversee, & S. Lane (Eds.), *Juvenile Sexual Offending: Cause, Consequences, and Correction*. 3rd edition. John Wiley & Sons.
- Ryan,G., Leversee,T., & Lane,S. (2010). Integrating Theory and Method : Goal-Oriented Treatment. In G.Ryan, T. Leversee, & S. Lane (Eds.), *Juvenile Sexual Offending: Cause, Consequences, and Correction* 3rd edition. John Wiley & Sons.
- Rogers, C. R. (1957). The Necessary and Sufficient Conditions of Therapeutic Personality Change. Journal of Consulting Psychology, Vol. 21
- Rogers, C. R. (1959). A theory of therapy, personality, and interpersonal relationship, as developed in the client-centered framework. In S.Koch. (Ed.), *Psychology: A Study of ScienceIII. Formulation of the Person and the Social Context*. New York:McGraw-Hill, pp.184-256.
(ロージアズ C.R. 著 伊東博 (編訳) (1967). クライエント中心療法の立場から発展したセラピィ、パースナリティおよび対人関係の理論 ロージアズ全集第8巻パースナリティ理論 岩崎学術出版社)

- ・ 田口真二・平伸二・池田稔・桐生正幸（編著）（2010）. 性犯罪の行動科学：発生と再発の抑止に向けた学際的アプローチ 北大路書房
 - ・ 安井猛・田島裕之・目黒恒夫・箭内任・宮崎正美（2012）. 「共感」を基盤とする多角的な人間理解 尚絅学院大学紀要（64），1—15，2012—12—00
-

¹ 自己の行為による被害であることを明確にするために、タイトルには以前のワークを修正し「わたしの被害者」とした。

² 神田橋（2013）は、治療者-患者関係において、「(患者との)ズレが見えた時」に思い込みが「壊れて」共感の瞬間がおとずれる、これは「洞察の体験」であるとされる。（p. 103—106）

³ 例えば、各シート（頁）に初出の漢字にはルビを一回ふる、文の折返しは句読点で行うなど。さらに、「フットプリント」にならない、欄外にマス目（□□）を設け、シートを終えるごとに実施者と対象者が確認のためチェックを入れるようにした。

⁴ Baron-Cohen・Leslie・Frith（1985）では、以下の状況が提示される。

①部屋にサーとアンがいます。サーは自分のバスケットにビー玉を入れました。②その後、サーが出て行きました。③部屋に残ったアンはバスケットにあるビー玉を自分の小箱に移しました。

④部屋に戻ってきたサーはさっきのビー玉を求めてどこを探すでしょうか。

誤信念課題と言われるもので、サーは自分のバスケットの中を探すはずだが、ビー玉はアンの小箱にある（ことを被験児は知っている）。当事者からは、この課題は「重度の自閉症者に対してはふさわしくない」との指摘があり、「正解がわかっていても、その答えを口で言ったり、指示したりすることができない」からだとする。さらに、「僕は、自閉症者には『共感する気持ち』が足りないと考えられていることに疑問を感じています。」その視点が違うのだと述べる。（東田直樹（2013）. 自閉症の僕が生きていく風景第12回 ビッグイシュー日本版 第223号 p. 8—9）

2. 「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」の目的と構成

ワークの概要を表1に示す。ワークは、先述したように、(a)自己の性暴力の明確化、(b)性被害についての心理教育、(c)被害者に対する理解の深化、の3領域からなる。本研究において修正検討を加えたのは、(c)領域のシート20とシート21である。

表1. 「性暴力被害とわたしの被害者を理解するワーク」概要

No.	シート	内 容
1	ワークの目的	ワークの目的を示す。
2	性暴力の定義	性暴力の定義を示す。
3	性暴力の被害者①	性暴力の内容と被害者を特定する。
4	性暴力の被害者②	被害者の被害時の気持ちを考え、その理由を考える。
5	性暴力の被害者③	被害者の身体損傷、今の感情、生活への影響を考える。
6	トラウマとは	トラウマについて学習する。
7	ストレス時の対象者の状態	ストレス時の対象者自身の身体、感情、思考、行動を示す。
8	性暴力をうけたあとにおける問題（トラウマ症状例）	過酷なストレス（性暴力）後の具体的な身体状態、感情、思考、行動への影響を学習する。
9・10	Aさん（架空の性暴力被害事例）と解説	25歳Aさんは幼児期の被害のため今も解離、マヒ、集中力低下に苦しむ。
11・12	Bちゃんの事例と解説	小1Bちゃんは被害者なのに罪障感を感じる。
13・14	Cさんの事例と解説	高1Cさんはフラッシュバックなどが出現する。
15・16	Dさんの事例と解説	30歳男性Dさんには学童期のいじめのため飲酒への依存、職業生活の不適応を生じた。
17	リラックスシート	対象者の状態に応じてリラックス。
18	私の被害者①	被害を受けなかった時の被害者の人生イメージ。
19	私の被害者②	被害を受けその人生がどう変化したか。
20	私の被害者の気持ちの理解①	被害時、被害者の外見的様子を想起させ、被害時の被害者の感情と思考内容を考える。
21	私の被害者の気持ちの理解②	被害者の現在の生活上の困難、感情、思考を考え、対象者自身の感情と思考を再検討する。
22	私の被害者へ伝えること	加害者として被害者に今伝えねばならないこと。
23	私の家族のこと①	家族が対象者に伝えたいことを考える。
24	私の家族のこと②	家族への要望や困り事。さらに、被害者家族に伝えたいこと。
25	ワークの復習	学習内容を簡単にまとめる。
26	ワークの感想	学習を終えた感想を述べる。